

UAD Console for Volt 876 マニュアル

VOLT 876



このマニュアルには、Volt 876 をコントロールするためのソフトウェアである UAD Console の詳細な操作手順が記載されています。

注: Apollo オーディオインターフェースをコントロールする場合は、UAD Console for Apollo のマニュアルをご覧ください。

コンテンツ

UAD Console for Volt 876 の概要	5
UAD Console for Volt 876 のレイアウト	7
Volt 876 の UAD コンソールにおける入力	13
モニターミックスコントロール	23
モニターコラム	25
コントロールルーム	31
CUE(キュー)	32
モード	37
複数の Volt 876 インターフェースによる ADAT 拡張	39
Volt 876 ハードウェアの ADAT 拡張(44.1 kHz / 48 kHz)用ケーブル接続	41
UAD Console for Volt 876 の設定	45

Volt 876 用 UAD コンソールのご紹介

UAD コンソールは、Volt 876 オーディオインターフェイスの強力なコンパニオンソフトウェアです。コンピューターからハードウェアの全機能をリモートコントロールできます。レイテンシーフリーのメインモニターミックスと、演奏者用の 2 つのキューミックスを作成したり、ソフトウェア入力用のループバックチャンネルをコントロールしたり、トークバックマイクを使用したりするなど、様々な機能を備えています。

Volt 876 用 UAD Console では、以下の機能をご利用いただけます。

- ・すべてのアナログ入力のプリアンプ設定（ゲイン、ビンテージモード、76 コンプレッサー、極性、+48V ファンタム電源）を調整可能です。
- ・Assistive Auto-Gain によるプリアンプゲインの自動調整できます。
- ・アナログ入力 1 と 2 の楽器（Hi-Z）レベルを有効化できます。
- ・アナログ、デジタル、ループバック入力からのモニターミックスとキューミックスを調整できます。
- ・2 つの独立したキューミックスをヘッドフォン出力、ライン出力、またはデジタル出力にルーティング可能です。
- ・Volt 876 内蔵トークバックマイクを使用して、キューミックスを通じて演奏者とコミュニケーションがとれます。
- ・ステレオループバック（ソフトウェア再生）をコントロールして、他のアプリの出力をモニタリング可能です。
- ・2 台または 3 台の Volt 876 で 16～24 チャンネルのアナログ入力をフルミキシングする拡張システムをコントロールできます。
- ・UAD Console セッションファイルの保存と読み込みにより、すべての関連設定を完全に呼び出し可能です。
- ・Volt 876 をメインのオーディオインターフェイス、スタンドアロンの ADAT A/D コンバーターとして設定プリアンプコントロールを備えた D/A コンバータとして、または拡張システムで複数の Volt 876 ユニットを構成できます。

Volt 876 ドキュメントについて

- ・UAD コンソールの設定と説明については、このマニュアルをご利用ください。
- ・ハードウェアの構成と説明については、Volt 876 ハードウェアマニュアルをご覧ください。
- ・Volt を UA Connect に登録し、付属ソフトウェアを受け取る方法については、「Volt インターフェースの設定方法」をご覧ください。

UAD コンソールを入手する

最新の UAD コンソールアプリをダウンロードしてインストールし、Volt 876 のファームウェアをアップデートするには、UA Connect アプリをご利用ください。詳しくはこちらの記事をご覧ください。

UAD Console for Volt 876 の概要

UAD Console for Volt 876 は、Volt 876 ハードウェア用のリモートコントロールソフトウェアです。ヘッドフォンボリュームと電源スイッチを除くすべてのハードウェア機能を完全にコントロールできます。また、Volt 876 の入力におけるアナログ信号とデジタル信号をミックスし、レイテンシーのないダイレクトモニタリングを実現するミキサーとしても機能します。Apollo 搭載の UAD Console とは異なり、UAD Console for Volt 876 にはプラグインインサートやプラグインプロセッシング機能はありません。プラグインプロセッシングはすべて DAW 側で行われます。

入力信号をメインモニターミックスにルーティングし、2 つの独立したキューミックスを演奏者用の出力に送ることができます。UAD Console for Volt 876 は、キューミックスを介して演奏者とコミュニケーションをとるための内蔵トークバックマイクと、システムサウンドやビデオ会議ソフトウェアなどの他のソフトウェアからの出力をモニターミックスとキューミックスに含めるためのループバックチャンネルもコントロールします。

Volt 876 を使用すると、UAD Console for Volt 876 の出力(モニターミックス、トークバックマイク、ループバックチャンネル)を DAW(デジタルオーディオワークステーション)ソフトウェアに録音できます。これらの「仮想」ソフトウェア出力を DAW の入力チャンネルのソースとして選択します。

ハードウェアモニタリングとソフトウェアモニタリング

ダイレクトハードウェアモニタリングは、Volt 876 の入力を DAW に送ることなく、直接出力にルーティングし、ライブモニタリングを可能にします。バッファリングによるレイテンシーが発生する DAW のソフトウェアモニタリングとは異なり、ダイレクトモニタリングではレイテンシーなしで入力をモニタリングできます。

Volt 876 の UAD Console は、DAW プラグイン経由で演奏している場合など、DAW でソフトウェア・モニタリングされている信号をミックスしません。ソフトウェア・モニタリングを行う場合は、信号の重複を防ぐため、UAD Console で入力をミュートするか、Volt 876 ハードウェアのダイレクトモニタリングを無効にする必要があります。

基本的な概念: ハードウェアモニタリング(ダイレクト)とソフトウェアモニタリング(ミュート)

ダイレクトモニタリング: Volt 876 の入力はミュート解除され、レイテンシーなしで聞こえます。入力信号は DAW に送られ、録音可能です。

ソフトウェアモニタリング: Volt 876 の入力はミュートされ、DAW のミキサーから聞こえます。入力は DAW プラグインで処理できますが、モニター信号はバッファサイズの設定に応じてレイテンシ

ーが発生します。

重要: ソフトウェアモニタリングを行う場合は、UAD コンソールで入力をミュートするか、Volt 876 ハードウェアのダイレクトモニタリングを無効にする必要があります。そうすることで、「位相がずれたような」または「音が薄くなったような」オーディオの二重化を防ぐことができます。

モードの概要

Volt 876 には、USB と ADAT という 2 つの主要な動作モードがあります。これら 2 つのモードは、Volt 876 の入出力の設定が全く異なります。必要なモードは、Volt 876 の使い方によって異なります。詳細は[モード](#)をご覧ください。

USB モード: 標準的なオーディオインターフェースモードで、最大 24 チャンネルのアナログおよびデジタル入力をコンピューターにルーティングできます。USB モードは、ADAT 拡張システムにおけるコントロールユニットのモードでもあります。

ADAT モード: Volt 876 をスタンドアロンのマイクプリアンプおよび A/D-D/A コンバーターとして、または ADAT 拡張システムで使用できるように再構成します。ADAT モードでは、デジタルオーディオはオプティカルケーブルでルーティングされますが、USB 経由でコンピューターに接続することで、UAD Console for Volt 876 からコントロールできます。ADAT モードには、以下の 2 つの状態があります。

- ・ADAT スタンドアロンモード (USB 経由のコンピューターコントロールの有無を選択)。
- ・ADAT 拡張モードは、Volt 876 を 2 台または 3 台接続してマルチユニットシステムを構築する場合に使用します。この構成では、エクスパンダーユニットはオプティカルケーブルで相互接続され、最大 72 入力を UAD Console for Volt 876 の単一の統合ウィンドウ内で USB 経由で制御できます。

UAD Console for Volt 876 のレイアウト

UAD Console for Volt 876 では、タイトルバー、インフォメーションバー、メーターブリッジ、入力チャンネルストリップなど、特定の画面要素が常に表示されます。その他の UAD Console 要素は、ワークフローに合わせて表示または非表示にすることができます。次の図は、UAD Console for Volt 876 ウィンドウの一部を示しています。

ヒント: UAD Console は複数回のアンドウとリドウに対応しています。UAD Console での変更を取り消すには、Command+Z (Mac) または Alt+Z (Windows) を押します。



機能概要

- 1 タイトルバー デバイス名またはデバイスセクターと、「閉じる」、「最小化」、「最大化」ボタンがあります。
- 2 プリアンプコントロール アナログ入力 1~8 で、プリアンプの設定を行えます。
- 3 キューコントロール Volt 876 の 2 つの独立したキューミックスを調整できます。

- 4 メーターブリッジ 現在表示されているすべての入力の小さなレベルメーターを表示します。メーターブリッジを左右にドラッグすると、表示されていない入力が表示されます。
- 5 デバイス名またはセレクトアー UAD コンソールのデバイスビューを選択します。Volt、Apollo、または Apollo E デバイス(存在する場合)を選択できます。
- 6 アナログ入力 アナログ入力 1~8 は、1/4 インチまたは XLR コネクタを備えたアナログ機器の出力に接続できるプリアンプ入力です。
- 7 デジタル入力 デジタル入力は、他のデジタル機器の出力からの ADAT または S/PDIF 信号をミックスするためのものです。
- 8 ループバックチャンネル ループバックチャンネルは、システムの「ループバック」出力にルーティングされたオーディオをミキサーにブレンドするために使用できます。
- 9 コントロールルーム列 Volt 876 前面のトークバックマイクを使用して、キューミックスを通して演奏者に話しかけたり、モニターするソースを選択したりできます。
- 10 モニター列 UAD コンソールに表示する入力の設定、キューソースの設定、モニタースピーカーへのメインミックスレベルの調整ができます。
- 11 情報バー Volt 876 の動作モード、サンプルレート、クロックソースを選択できます。
- 12 オプション列 各キュー行用の大小のスイッチと、クリアソロ(S)スイッチとクリアオーバーリミット(OL)スイッチがあります。クリアソロでソロのオン/オフを切り替えることができます。ソロチャンネルのオン/オフを切り替えます。Clear OL は UAD コンソールのクリップされたメーターLED をクリアします。

タイトルバー

タイトルバーは、UAD コンソールウィンドウの最上部に表示されます(下図参照)。



UAD コンソールのタイトルバー

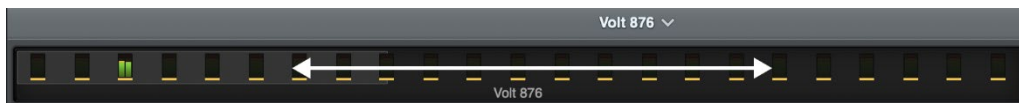
タイトルバーの上部には、Volt 876(または設定で入力したカスタム Volt デバイス名)が表示されます。ここをクリックすると、Volt、Apollo、Apollo E シリーズデバイス(存在する場合)を切り替えることができます。

タイトルバーには、「閉じる」、「最小化」、「最大化」ボタンがあります。「X」ボタンをクリックすると、UAD コンソールウィンドウが閉じ、UAD コンソールが終了します。

メーターブリッジ

メーターブリッジは UAD コンソールウィンドウの上部に表示されます。メーターブリッジには、表示されているすべての入力（非表示のチャンネルも含む）の小さなレベルメーターが表示されます。アナログ入力は常に表示されます。2 つのデジタル入力バンクは、モニター列の ADAT スイッチで表示/非表示を切り替えることができます。

すべてのチャンネルが表示されていない場合は、メーターブリッジを左右にドラッグすると、表示されていない入力が表示されます。



メーターブリッジ チャンネルメーター

縦型の LED メーターは、表示されている各チャンネルの入力信号の状態を表示します。これらの小型メーターは、各チャンネルの入力フェーダーの横に表示される高解像度の入力メーターの状態を反映しています。

信号フローの概要

次の図は、UAD コンソールの入力チャンネルストリップにおける信号の流れを示しています。



機能概要

- 1 ビンテージプリアンプモード 入力信号にアナログ・ビンテージ・プリアンプ処理を適用します(ア

ナログ入力のみ)

2 76 コンプレッサー 調整可能なアナログコンプレッションで入力信号を圧縮します(アナログ入力のみ)

3 ゲイン 信号レベルを手動で設定します(アナログ入力のみ)

4 自動ゲイン調整 信号レベルを自動設定します(アナログ入力のみ)

5 48V ファンタム電源と極性 ファンタム電源の有効/無効と極性反転を切り替えます(アナログ入力のみ)

6 キュー すべての入力は最大 2 つのキューバスにルーティングできるため、演奏者のニーズに合わせてレベルを調整した個別のミックスを作成できます。キューはヘッドフォン出力にルーティングしたり、ライン出力にミラーリングしたりできます。

7 パン すべての入力はステレオフィールドで左右にパンできます。

8 ソロとミュート 1 つまたは複数の入力をソロにして、一時的に個々のソースだけを聞くことができます。1 つまたは複数の入力をミュートして、ミックスから一時的に除外することができます。

9 フェーダー 入力のフェーダーを調整することで、ミックス内のソースのレベルを設定できます。フェーダーはトラックの入力レベル(DAW ソフトウェアが受信するレベル)には影響しません。

10 メインミックスへの出力 すべての入力はメインミックスにルーティングされ、モニター出力に接続されたスピーカー、またはヘッドフォン出力 1 と 2 に接続されたヘッドフォン(キューに使用していない場合)で聴くことができます。

情報バー

情報バーでは、よく調整する設定にアクセスできます。



モード

Volt 876 の動作モードを設定します。詳細は [USB モード](#) と [ADAT モード](#) を参照してください。

サンプルレート

A/D および D/A 変換の現在のサンプルレートが表示されます。このドロップダウンメニューから別のサンプルレートを選択してください。88.2kHz 以上の高サンプルレートでは、利用可能な ADAT チャンネル数が変わります。

使用可能なサンプルレート(kHz)

• 44.1

- ・48
- ・88.2
- ・96
- ・176.4
- ・192

クロックソース

アクティブなクロックソース(内部、ADAT、S/PDIF、またはワードクロック)がここに表示されます。このドロップダウンメニューから別のクロックソースを選択できます。現在選択されているクロックが未解決の場合(デジタルオーディオが同期していない場合)、クロックソースは赤く点滅します。

- ・内部:クロックソースは Volt 876 の内部クロックです。
- ・ワードクロック:クロックソースは Volt 876 のワードクロック入力に接続された外部クロックです。
- ・ADAT:クロックソースは ADAT 入力信号です。ADAT は、UAD コンソール設定でデジタル入力フォーマットが ADAT に設定されているか、ユニットが ADAT モードの場合にのみ使用できます。
- ・S/PDIF:クロックソースは S/PDIF 入力信号です。S/PDIF は、UAD コンソール設定でデジタル入力フォーマットが S/PDIF に設定されている場合にのみ使用できます。

重要:クロックソースパラメータで外部クロックソースを使用するように設定した場合、サンプルレートは外部クロックのサンプルレートに合わせて手動で設定する必要があります。

Volt 876 の UAD コンソールにおける入力

Volt 876 の UAD コンソールでは、以下の入力チャンネルタイプが利用可能です。

- Volt 876 アナログ入力
- Volt 876 デジタル入力
- Volt 876 ループバックチャンネル

Volt 876 アナログ入力

すべてのアナログ入力にはプリアンプが搭載されており、マイク、ギター、ベースなどのアナログソース、またはキーボードなどのラインレベル機器からのアナログ出力を入力できます。アナログ入力 1～8 には、それぞれ 2 種類のアナログコネクタが用意されています。

- XLR コネクタ - XLR プラグをジャックに接続すると、チャンネル 1～2 の INST(Hi-Z) 設定を除くすべてのプリアンプ機能を使用可能になります。
- ¼ インチコネクタ - ¼ インチ TRS または TS プラグをジャックに接続すると、48V ファンタム電源を除くすべてのプリアンプ設定が使用可能になります。48V ファンタム電源は XLR 接続でのみ使用可能です。
- Hi-Z コネクタ - アナログ入力 1～2 に ¼ インチプラグを接続すると、ハードウェアまたは UAD コンソールの INST スイッチをオンにすることで、これらの入力を Hi-Z 楽器信号に対応させることができます。INST ボタンが点灯しているときは、48V ファンタム電源は無効になります。

アナログプリアンプ クイックリファレンス



機能概要

- 1 **ビンテージプリアンプモード** ビンテージプリアンプモードを有効にすると、クラシックなアナログプリアンプのトーンを信号に加えることができます。ビンテージプリアンプのトーンは、そのまま DAW ソフトウェアにレコーディングされます。
- 2 **76 コンプレッサー** 76 コンプレッサーを有効にすると、入力信号にアナログ感あふれる 1176 スタイルのコンプレッションを加えることができ、そのサウンドを DAW ソフトウェアにレコーディングできます。
- 3 **楽器スイッチ** 入力 1 または 2 を楽器 (Hi-Z) 入力として選択します。
- 4 **ゲインノブ** ゲインノブで入力信号のレベルを手動で設定します。これにより、DAW ソフトウェアに表示される信号レベルが調整されます。
- 5 **アシスティブオートゲイン** アシスティブオートゲインを使用して、1 つまたは複数のチャンネルの入力レベルを自動調整します。これにより、DAW ソフトウェアに表示されるレベルが調整されます。
- 6 **48V ファンタム電源スイッチ** マイクに必要な場合に 48V ファンタム電源を供給します。
- 7 **極性スイッチ** チャンネルの極性を反転することで、位相の問題を修正します。

Volt 876 アナログ入力の詳細

ヴァンテージプリアンプモード

ヴァンテージプリアンプモードは、Universal Audio のオールチューブ・コンソール・プリアンプ 610 にインスパイアされた、緻密に作り込まれたアナログ真空管プリアンプ・エミュレーションを追加し、より豊かなサウンドを実現します。ボタンがオレンジ色に点灯しているときは、回路がアクティブです。

ヴァンテージスイッチを押すと、ヴァンテージプリアンプ・モードを切り替えます。ヴァンテージプリアンプ・モードは、マイク、ライン、インストゥルメント入力で使用できます。有効にすると、UAD コンソールと Volt 876 ハードウェアの入力で、Vintage ボタンが点灯します。

76 コンプレッサー

76 コンプレッサープリセットを有効または無効にするには、プリセット名をクリックするか、76 コンプレッサー・ボタンを押して 76 コンプレッサー回路のオン/オフを切り替えます。76 コンプレッサーは、マイク、ライン、インストゥルメント入力で使用できます。コンプレッション回路がアクティブなときは、ボタンがオレンジ色に点灯します。

76 コンプレッサーは、UA の象徴的な 1176 リミッティングアンプをベースとしたアナログコンプレッサーで、ボーカルやギターなどに明瞭さとパンチを加えることができます。

ヒント:コンプレッサーがオンになると入力レベルが上昇するため、ゲイン設定を再調整することをお勧めします。

76 コンプレッサープリセット

76 コンプレッサーボタンの下のインジケーターは、プリセットのいずれかでコンプレッサーがオフになっているか、オンになっているかを示します。76 コンプレッサープリセットには以下の特性があります。

FAST:非常に速いアタックと中程度のリリースで、アグレッシブなコンプレッションが得られます。

GUITAR:遅いアタックと比較的速いリリースで、ギター/ベースのトランジェントを高めます。

VOCAL:速いアタックと遅いリリースで、クラシックでスムーズなボーカルコンプレッションが得られます。

ヒント:これらのプリセットは特定のソースでの使用を想定して設計されていますが、どの設定でもあらゆるソースで使用できます。76 コンプレッサーを自由にクリエイティブに活用してください。

インストゥルメントスイッチ(チャンネル 1~2 のみ)

INST スイッチを押すと、1/4 インチ入力のインピーダンスとゲインが切り替わり、エレキギターやベースなどの Hi-Z 楽器を接続できます。

ゲインノブ

入力チャンネルのゲインは、UAD コンソールのゲインノブで手動で調整するか、Volt 876 ハードウェア左側のエンコーダーで調整できます。UAD コンソールでは、ノブをドラッグしてレベルを調整します。UAD コンソールの入カストリップメーターで、最も音量が大きいソースが赤色でピークにならないようにレベルを調整してください。



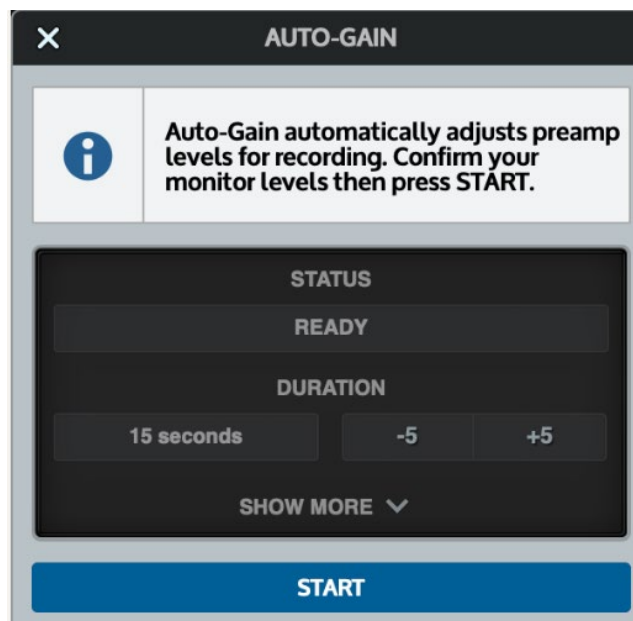
Assistive Auto-Gain

Assistive Auto-Gain を使用すると、プリアンプの入力ゲインを自動で設定できます。

注意: Assistive Auto-Gain は、録音時にプリアンプのレベルを自動調整します。聴覚への損傷を防ぐため、操作を進める前にモニターレベルが安全に設定されていることを確認してください。

ゲインを自動設定するには

1. プリアンプの任意のチャンネルで、ゲインノブの下にある Auto-Gain ボタンを押します。Auto-Gain フローティングウィンドウが開きます。



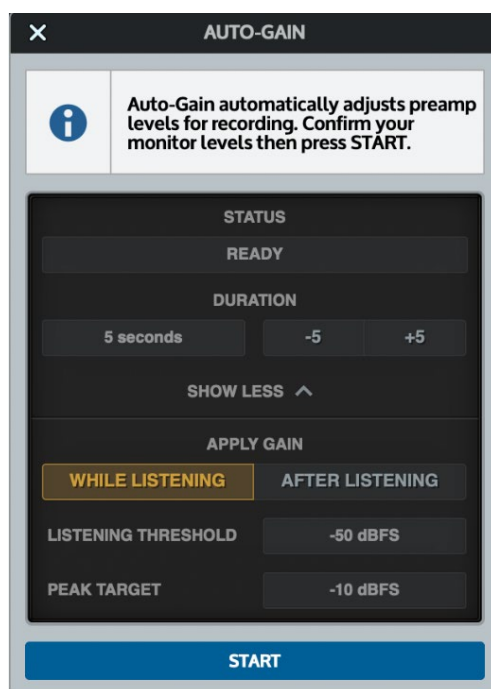
2.Start を押し、演奏中と同じ音量でソースを再生します。ゲインは自動的に設定されます。デフォルトでは、Assistive Auto-Gain は 10 秒間レベルを検出して調整します。調整時間を±5 秒ずつ増減するには、-5 または +5 ボタンを押します。Auto-Gain が音を聴いている間にも調整できます。

Auto-Gain フローティングウィンドウは、聴取時間が終了すると閉じます。Auto-Gain ウィンドウを閉じるには、「Done」をクリックします。

ヒント:複数のプリアンプで同時に Auto-Gain を設定できます。調整したいプリアンプごとに、自動ゲインボタンをクリックするだけです。フローティングウィンドウに表示される自動ゲインオプションは、自動ゲイン対応のプリアンプすべてに適用されます。

オートゲイン設定

オートゲインのその他の設定を表示するには、「SHOW LESS」をクリックしてください。



機能の詳細

・Duration

ゲインレベルを設定する際にオートゲインが信号を検出する時間を設定します。

デフォルト設定は 10 秒です。異なる期間を設定するには、ボックス内をクリックして上下にドラッグするか、「-5」または「+5」ボタンをクリックします。ボックス内をクリックして新しい値を入力し、Enter キーを押すこともできます。

注:最大期間は 90 秒です。

- Apply Gain

オートゲイン調整の動作を設定します。

「WHILE LISTENING(リスニング中)」は、オートゲインの期間中、2 秒ごとにゲイン変更を適用します。「WHILE LISTENING(リスニング中)」は、オートゲインが有効になっているプリアンプが 1 つまたは 2 つある場合にのみ使用できます。

「AFTER LISTENING(リスニング後)」は、オートゲインのリスニング期間が終了した後にゲイン変更を適用します。

- Listening Threshold(リスニングしきい値)

オートゲインが信号を検出し、ゲイン調整を開始する最低レベルを決定します。この設定により、検出可能な信号がない場合でも、オートゲインがゲインを極端に高く設定することがなくなります。デフォルト設定は -50 dBFS ですが、低レベルのソースには小さすぎる可能性があります。別のしきい値を設定するには、ボックス内をクリックして上下にドラッグするか、ボックス内をクリックして新しい値を入力して Enter キーを押します。

- Peak Target

オートゲインが素材に対して設定する最大ピークレベルを決定します。デフォルト設定は -8 dBFS ですが、上下に調整できます。設定値が高いほど(ヘッドルームが狭くなるほど)、デジタルクリッピングのリスクが高まることに注意してください。別のピークターゲットを設定するには、ボックス内をクリックして上下にドラッグするか、ボックス内をクリックして新しい値を入力して Enter キーを押します。

48V ファンタム電源

コンデンサーマイクなど、ファンタム電源を必要とする機器を使用する場合は、チャンネルの 48V スイッチをオンにしてください。48V ファンタム電源を有効にすると、UAD コンソールと該当チャンネルの Volt 876 ハードウェアの 48V LED が赤く点灯します。ファンタム電源の有効/無効を切り替えると、48V LED は短時間点滅します。48V ファンタム電源が有効になっているとき、または LED が点滅しているときは、入力に機器を接続したり取り外したりしないでください。

注意: 48V は、ファンタム電源対応マイクなど、対応機器でのみ使用してください。対応機器以外を使用すると、電圧によって損傷する可能性があります。

Polarity(極性)

極性(位相)スイッチを有効にすると、チャンネルの信号極性が反転します。有効にすると、UAD コンソールと Volt 876 ハードウェア上で、選択したチャンネルのスイッチが点灯します。

ヒント: 複数のマイクを使用して単一のソースを録音する場合、極性を反転することで位相の打ち消しを軽減できます。

Volt 876 デジタル入力の詳細

デジタル入力は、デジタル信号 (ADAT または S/PDIF) をミキサーにルーティングします。UAD Console を使用すると、デジタル入力をキューにルーティングできます。DAW を使用すると、デジタル入力を Volt 876 の任意の出力にルーティングできます。

アナログ入力とは異なり、デジタルチャンネルにはトーンシェーピング機能やプリアンプコントロールはありません。デジタル入力の信号レベルは、Volt 876 に接続されたデジタル機器の出力レベルを調整することで設定されます。

デジタルチャンネルのフォーマットを選択するには、UAD Console の Volt 876 設定を参照してください。

ADAT チャンネルの表示/非表示の切り替え

Volt 876 の ADAT チャンネルは、UAD コンソールで表示/非表示を切り替えることができます。ADAT チャンネルの表示/非表示を切り替えるには、モニターストリップのキューの下ボタンをクリックします。これらのボタンには、切り替え時に表示/非表示となるチャンネル名が付けられています。ボタンが点灯しているチャンネルは UAD コンソールに表示されます。サンプルレートを変更すると、使用可能なチャンネル数が更新されます。

入力の表示/非表示を切り替えても、オーディオのミュート/ミュート解除は行われませんのでご注意ください。デジタルチャンネルをミュートするには、ミュートスイッチを使用してください。S/PDIF デジタルフォーマットが指定されている場合、これらのチャンネルは常に表示され、ADAT チャンネルのボタンは表示されません。



ADAT

ADAT 入力では、デジタルフォーマットとサンプルレートに応じて、UAD コンソールミキサーで最大 16 の ADAT 入力チャンネルを利用できます。

S/PDIF

S/PDIF 入力では、サンプルレートに関係なく、2 つの入力チャンネルと 2 つの出力チャンネルが利用可能です。S/PDIF 出力チャンネルは、2 つのオプティカル出力にミラーリングされます。

サンプルレートとデジタルチャンネル

以下の表は、様々なサンプルレートで利用可能なデジタルオーディオチャンネルの簡単な概要を示しています。

オプティカルフォーマット	サンプルレート (kHz)	オプティカル入力1	オプティカル出力1	オプティカル入力2	オプティカル出力2
S/PDIF	44.1, 45	2チャンネル S/PDIF(LR)	2チャンネル S/PDIF(LR)	無効	2チャンネル S/PDIF(LR) (ミラーリング)
	88.2, 96				
	176.4, 192				
ADAT	44.1, 48	8チャンネル ADAT 1-8	8チャンネル ADAT 1-8	8チャンネル ADAT 9-16	8チャンネル ADAT 9-16
	88.2, 96 (S/MUX)	4チャンネル ADAT 1-4	4チャンネル ADAT 1-4	4チャンネル ADAT 5-8	4チャンネル ADAT 5-8
	176.4, 192 (S/MUX)	2チャンネル ADAT 1-2	2チャンネル ADAT 1-2	2チャンネル ADAT 3-4	2チャンネル ADAT 3-4

Volt 876 ループバックチャンネル

ループバック(ソフトウェア再生)チャンネルは、システムオーディオを UAD コンソールミキサーにルーティングします。このチャンネルを使用すると、オーディオアプリ、ビデオ、ゲーム、その他のシステムイベントからのオーディオをオーディオ制作ストリームに組み込むことができます。



ループバックの一般的な用途:

- ・システムオーディオの録音 - マイクを使わずに、コンピューターから音楽、ポッドキャスト、または動画の音声を直接キャプチャします。
- ・ライブストリーミング - ライブストリーミング中に、視聴者に BGM や効果音を再生します。
- ・バーチャルミーティング - バーチャルミーティングやビデオ会議中に、オーディオクリップや曲を他のユーザーと共有します。
- ・ゲームオーディオのキャプチャ - キーボードのノイズやその他の室内の音を拾うことなく、ゲーム内のサウンドをきれいに録音します。

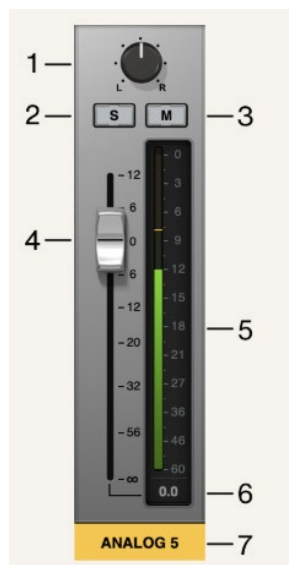
オーディオをループバックチャンネルにルーティングするには、オーディオソフトウェアの詳細設定

で出力デバイスとして LOOPBACK を選択します。すべてのソフトウェアがこの機能を備えているわけではないことに注意してください。

モニターミックスコントロール

モニターミックスは、UAD コンソールにあるコントロールで、モニター出力 1-2(および設定により Alt 出力 3-4)に出力されるオーディオ信号をミックスできます。モニターミックスコントロールは、モノラルとステレオのリンクされたトラックで表示が若干異なります。

ヒント:フェーダーエリアの上端をクリックすると、コンパクトフェーダーの表示(短くする)を切り替えることができます。または、UAD コンソールメニューから「View」>「Compact Monitor Faders」を選択して、フェーダーの高さを切り替えることもできます。



機能説明

- 1 入力パン ステレオパノラマ内でトラックを左右に移動します。ステレオリンクされた入力には、左右のパンコントロールがあります。
- 2 入力ソロ モニターミックスでは、この入力のみが聞こえます。複数の入力を同時にソロにすることができます。
- 3 入力ミュート
モニターミックスでは、この入力は聞こえません。複数の入力を同時にミュートすることができます。
- DAW(ソフトウェアモニタリング)でのみ入力をモニタリングするには、入力をミュートする必要があります。ミュートされていない場合、その入力でダイレクトモニタリングが有効になります。
- 4 入力フェーダー モニターミックスで入力のレベルを調整します。入力フェーダーは、DAW に送られるレベルには影響しません。
- 5 入力レベルメーター 入力信号レベルを表示します。入力フェーダーはメーターレベルを変更しません。メーターレベルを変更するには、入力のプリアンプゲインを調整します(アナログ入力の

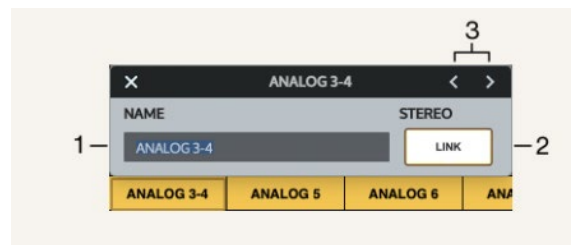
み)。

6 入力フェーダー値 フェーダーのレベル(dB 単位)を表示します。クリックして特定の値を入力します。

7 チャンネル名 入力名を表示します。クリックすると入力名を変更したり、ステレオ入力のリンク/リンク解除を行ったりできます。

入力の名前変更とリンク

チャンネルストリップ下部の入力名をクリックすると、名前変更/リンクのポップオーバーが開きます。



機能説明

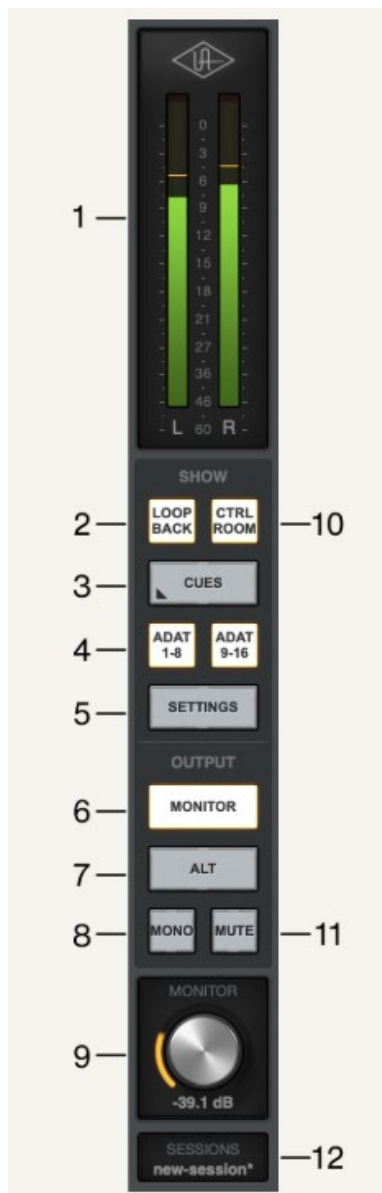
1 NAME 欄:ここに名前を入力できます。元の名前に戻すには、入力を消去してポップオーバーを閉じます。

2 LINK ボタン:このボタンをクリックして、ステレオペアのリンクまたはリンク解除を行います。リンクボタンが点灯しているときは、トラックはリンクされています。ステレオペアは奇数番号の入力から始まる必要があります(入力 5 と 6 はリンクできますが、6 と 7 はリンクできません)。

3 前へ / 次へボタン:左右の矢印をクリックすると、前の入力と次の入力を切り替えます。

モニターコラム

モニターコラムには、モニター出力、フェーダー表示、キューに関連する要素が含まれています。モニターコラムは、UAD コンソールメニューから「View」>「Section」>「Monitor」を選択すると、UAD コンソールウィンドウの右側に表示されます。



機能説明

1 ステレオレベルメーター

モニターミックスのレベルを表示します。ここに表示されるレベルは、Volt 876 ハードウェアのモニター 1-2 LED メーターに反映されます。

これらのメーターは、モニター出力レベルコントロール(プリフェーダー)の前信号を表示し、モニター出力における D/A コンバーターのレベルを反映します。

重要:クリッピングが発生した場合は、チャンネルフェーダーを下げてモニターミックスへの入力レベルを下げてください。

2 LOOPBACK 表示:ループバックチャンネルの表示を切り替えます。詳細は [Volt 876 ループバックチャンネル](#)を参照してください。

3 CUE 表示:キューミックスを割り当てるキュー出力ポップオーバーを開きます。詳細は [CUE](#)を参照してください。

4 ADAT 入力表示: ADAT 入力の表示を切り替えます (UAD Console Settings で ADAT デジタル入力が有効になっている場合)。

5 SETTING 表示: Volt 876 ハードウェアの設定を行う設定ウィンドウを表示します。

6 MONITOR 出力: モニタースイッチ 点灯している場合、モニターミックスがモニター(1-2)出力から聞こえます。このボタンは ALT モニタリングが有効な場合のみ表示されます。

7 ALT(オルタネート)スイッチ 点灯している場合、モニターミックスがオルタネート(3-4)出力から聞こえます。このボタンは ALT モニタリングが有効な場合のみ表示されます。

8 MONO スイッチ:ステレオモニターミックスの左右チャンネルをモノラル信号にまとめます。ボタンが点灯している場合、モニター出力はモノラルになります。

9 モニターレベルノブ: Volt のモニター出力のマスターレベルコントロールです。Volt 876 ハードウェアのモニターレベルノブと同じ働きをします。

10 CTRL ROOM(コントロールルーム)スイッチ:コントロールルーム列の表示を切り替えます。ここでは、トークバックの有効化、トークバックセンドの調整、モニター出力から聞こえるミックスの選択を行うことができます。

11 MUTE スイッチ:モニター1-2 出力をミュート/ミュート解除します。ヘッドフォン出力はミュートされません。

12 セッションファイル名:現在のセッションファイル名を表示します。Volt 876 UAD コンソールセッションを保存または読み込むには、ここをクリックしてセッションブラウザーを開いてください。詳しくは「セッションファイル」をご覧ください。

出力セクションの詳細

モニターオプションは、出力セクションのスイッチで操作します。

デフォルトでは、モノラルとミュートスイッチのみが表示されます。オルタネートモニタリングを有効にすると、モニタースイッチとオルタネートスイッチが表示されます。



オルタネートモニタリングが無効(左)と有効(右)の出力セクション

オルタネートモニタリング

Volt 876 は、別のスピーカーセットをモニターする機能を備えており、異なるスピーカーセットでミックスがどのように聞こえるかを素早く比較できます。オルタネートモニタリングは、UAD Console ソフトウェア、または Volt 876 ハードウェアのフロントパネルから有効にできます。

オルタネートモニター出力

オルタネートモニタリングを有効にすると、アナログ出力 3-4 からオルタネートミックスが聞こえます。オルタネートモニタリングを行うには、これらの出力にオルタネートスピーカーを接続してください。

オルタネートモニタリングを有効にすると、出力 3-4 で以前に聞こえていた信号は、それらの出力では聞こえなくなります。例えば、キューミックスを出力 3-4 にミラーリングすると、その接続は解除されます。Alt モニタリングを無効にすると、出力 3-4 で以前聞こえていた信号が復元されます。

UAD コンソールで Alt モニタリングを有効にするには：

- 1.UAD コンソールウィンドウの右側にある Monitor 列の Settings をクリックするか、UAD コンソールメニューから UAD Console > Settings を選択します。
- 2.Alt Count を 1 に設定します。
- 3.Alt モニタリングを無効にするには、Alt Count を 0 に設定します。

Volt 876 ハードウェアで Alt モニタリングを有効にするには：

- 1.Volt 876 フロントパネルで、ALT ボタンを点滅するまで(約 2 秒間)押し続けます。

Volt 876 は Alt モニターモードになり、出力 3-4 にルーティングされていた信号はそれらの出力にルーティングされなくなります。

2.Alt モニターモードのときに ALT ボタンを 1 回押すと、Alt 出力への信号が切り替わります。ALT ボタンが点灯しているときは、メインミックスがモニターL/R 出力ではなく出力 3-4 にルーティングされます。ボタンが消灯(オフ)になると、メインミックスは再びモニターL/R 出力にルーティングされ、出力 3-4 には信号が送られなくなります。

3.Volt 876 ハードウェアの ALT モードを終了するには、ALT ボタンをもう一度押し続け、ボタンが点滅するまで(約 2 秒間)待ちます。出力 3-4 にルーティングされていたチャンネルは復元されます。

モニター/オルタネートスイッチ

モニターとオルタネートスイッチは、ミックスをモニター出力またはオルタネート出力に送ります。これらのスイッチは、オルタネートモニタリングが有効になっている場合にのみ使用できます。

モノ

このスイッチは、ステレオモニターミックスの L チャンネルと R チャンネルをモノラル信号にまとめます。ボタンが点灯しているときは、ミックスはモノラルです。

ミュート

このスイッチはモニター出力をミュートします。スイッチが点灯しているときは、モニター出力はミュートされています。モニター出力がミュートされているときは、UAD コンソールと Volt 876 ハードウェアのモニターレベルインジケーター(レベルノブの周りのリング)が赤く点灯します。

セッションファイル

Volt 876 UAD コンソールの設定は、セッションファイルで管理できます。セッションファイルは、現在のセッション設定をディスクに保存します。セッションファイルを読み込むことで、UAD コンソールを以前保存した状態に復元できます。

注: モニター設定とハードウェア設定はグローバルパラメーターであり、セッションファイルには保存されません。

Volt 876 UAD コンソールのセッションファイルに保存されるパラメーターは以下の通りです。

Volt 876 セッションファイルに保存されるもの

アナログプリアンプ設定 (Vintage、76 Comp、Inst スイッチ、Gain、48V、Polarity)

すべてのノブ、ミュート/ソロ、フェーダー値（パン、キュー、レベル）
チャンネルのミュート状態
入力ステレオリンク状態
ループバックチャンネルレベル

Volt 876 セッションファイルに保存されないもの

入力名
モニターレベル
クロックソース
サンプルレート
キュー出力設定

セッションファイルの保存場所

デフォルトでは、セッションファイルは以下の場所に保存されます。

- ・Mac: Users/[ユーザー名]/Documents/Universal Audio/Volt Sessions/
 - ・Windows: C:\¥Users\[ユーザー名]\AppData\Roaming¥\Audio\Volt Sessions
- セッションファイルはディスク上の任意の場所に保存できますが、UAD Console はコンピューターのオペレーティングシステムによって表示されるセッションブラウザーや開く/保存ダイアログで常にこの場所を使用するため、デフォルトの場所を使用することをお勧めします。

注: UAD Console 内のセッションブラウザーにセッションファイルを表示するには、セッションファイルがデフォルトの場所に保存されている必要があります。

セッションファイルの拡張子

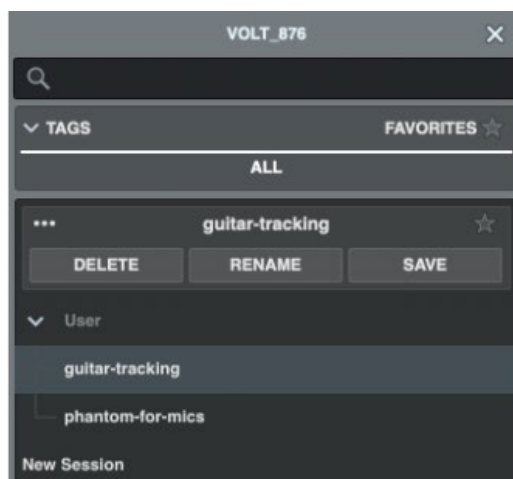
Volt 876 セッションファイルには「.volt876」という拡張子が付きます。この拡張子は、セッションファイルをディスクに保存する際に自動的に追加されますが、ファイル保存ダイアログには表示されません（セッションファイルを保存する際には、拡張子を手動で入力しないでください）。

セッションの保存と読み込み

- ・モニター列の下部にあるセッション名をクリックすると、UAD コンソールウィンドウの左側にセッションブラウザーが開きます。
- ・セッションを読み込むには、セッション名をクリックします。

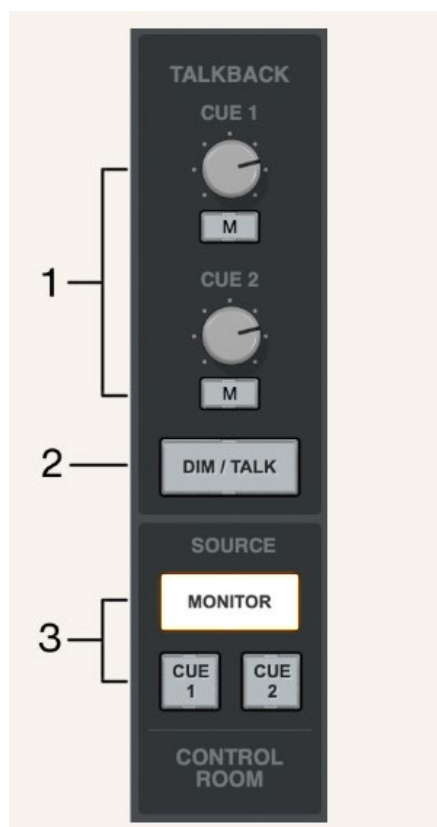
注: 読み込むセッションで、1 つ以上の入力に+48V ファンタム電源が必要な場合は、警告が表示されます。セッションを読み込み、+48V ファンタム電源を有効にするには、「OK」をクリックしてください。それ以外の場合は、「Cancel」をクリックしてください。

- ・現在のセッションを保存するには、「Save」をクリックし、名前を入力（またはそのままにしておく）して、「Save」をクリックします。
- ・選択したセッションの名前を変更するには、「Rename」をクリックし、新しい名前を入力して「Rename」をクリックします。
- ・選択したセッションを削除するには、「Delete」をクリックし、もう一度「Delete」をクリックします。



コントロールルーム

コントロールルームへは、モニターの表示セクションにある「CTRL ROOM」をクリックするとアクセスできます。コントロールルームのコントロールでは、トークバックマイクの有効化、キューへのトークバックレベルの調整、モニター1～2 出力で聞こえるソースの選択が行えます。



機能概要

- 1 TALKBACK: これらのノブで、CUE1 と 2 で聞こえるトークバックマイクのレベルをコントロールします。ミュートスイッチは、トークバックマイクがキューに聞こえないようにします。
- 2 DIM/TALK スイッチ: トークバックマイクとディム機能を有効にします。ボタンが点灯しているときはトークバックがアクティブで、フィードバックを防ぐためにモニターレベルが下げられます。
- 3 SOURCE: モニター出力で聞くミックスバスを選択します。MONITOR、CUE1、CUE2 のいずれかを選択できます。

TALKBACK

TALKBACK は、Volt 876 の専用ハードウェア TALK ボタン、または UAD コンソールのコントロールルームストリップ内の DIM/TALK ボタンで起動できます。

各キューの音量レベルを調整します。

DIM/TALK スイッチ

連続(ラッチ)トークバック - スイッチを 1 回押すと、トークバックのラッチ/アンラッチが切り替わります。ラッチ(点灯)時は、トークバックマイクの信号がモニターとキューに送信されます。
モメンタリー(アンラッチ)トークバック - 押し続けると、モメンタリートークバックになります。ボタンを押している間、トークバックマイクは信号を送信し、ボタンを離すと信号送信を停止します。

トークバックマイク

トークバックマイクは非常に敏感です。機器の損傷を防ぐため、マイクの穴に物を入れたり、マイクの穴に圧縮空気を吹き込んだり、マイクの穴を掃除機で掃除したりしないでください。

ディミング

トークバックが有効な場合、モニター出力は 20dB 低下(ディミング)され、トークバックマイクがモニタースピーカーからのプログラム音ではなく音声入力をより正確に捉えられるようになります。

キューへのトークバック

トークバックが有効な場合(ボタンがラッチまたはホールドされている場合)、トークバックマイク信号は 2 つのキューに送られます。コントロールルームストリップのノブで各キューへのトークバック信号のレベルを調整し、ミュートスイッチを押すことでキューへのトークバック信号をミュートできます。

Source

Source ボタンを有効にすると、モニターまたは Alt 出力で聞くミックスを選択できます。
MONITOR、CUE1、CUE2 のいずれかを選択できます。

メインミックスを聞くには、「MONITOR」を選択します。

キューミックスを聞くには、「CUE1」または「CUE2」を選択します。キュー出力ポップオーバーでキューが「MIX」に設定されている場合、メインミックスがデフォルト設定であるため、そのキューをモニターソースに設定することはできません。「MIX」に設定されているキューをモニターしようとすると、手順を示すダイアログが表示されます。

CUE (キュー)

CUE を使用すると、メインのモニターミックスとは異なるミックスを作成できます。キューは通常、

ヘッドフォンでカスタムミックスを聴きたい演奏者に使用されます。

キューミックスは、利用可能な出力ペアに送信(ミラーリング)することもできます。

注: 拡張システムでは、ADAT 出力ペアにミラーリングすると、キューミックスはエクスパンダーユニットの対応するアナログ出力に送信されます。例えば、拡張システムで ADAT 3-4 にルーティングすると、最初のエクスパンダーユニットのアナログ出力 3-4 にオーディオが送信されます。

上の画像では、キュー2 がライン 5-6 にミラーリングされています。キュー2(ヘッドフォン 2)にルーティングされた信号は、ライン出力 5-6 にも複製され、そこからキューミックスを別のモニタリングデバイスに送信できます。

キューミックスは、各入力ストリップとループバックストリップの 2 つのキューセンドを使用して調整します。すべてのキュー センドはプリフェーダーおよびプリミュートであるため、メイン モニター ミックスの調整による影響を受けませんが、ビンテージおよび 76 コンプレッサー信号(アナログ入力のみ)が含まれます。

キューを聴くには

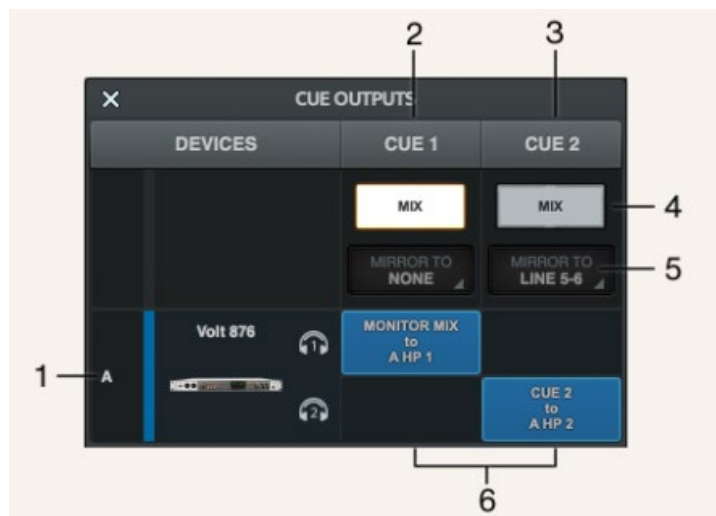
キューは「キュー出力」ポップオーバーで割り当てます。ここで、キューミックスまたはメインミックスをヘッドフォンに割り当てます。また、オプションで他の出力にも割り当てることができます。

デフォルトでは、ヘッドフォンにはメインミックスが出力されます。ヘッドフォンでキューミックスを聴くには、「キュー出力」ポップオーバーの「MIX」ボタンを無効にしてください。



キューポップオーバーオプション

キュー出力ポップオーバーを開くには、「MONITOR」の「CUES」をクリックします。



機能説明

- 1 デバイス: 割り当て可能なキューミックスを持つユニットと、それらのヘッドフォン出力が表示されます。Volt 876 が複数台ある場合、それぞれに異なる文字(A、B、または C)が割り当てられます。
- 2 CUE のルーティング: CUE1(ヘッドフォン 1)のオーディオソースを設定します。
- 3 CUE2 ルーティング CUE2(ヘッドフォン 2)のオーディオソースを設定します。
- 4 MIX ボタン ヘッドフォンでキューミックスを有効にするには、選択を解除します。MIX ボタンが点灯しているときはメインモニターミックスがヘッドフォンで聞こえ、MIX ボタンが消灯しているとき

はキューミックスが聞こえます。

5 ミラーリング先メニュー :メインミックスまたはキュー出力を出力チャンネルペアにミラーリングできます。ドロップダウンメニューから出力ペアをクリックして選択します。

6 キュールーティング:現在のキュールーティングは青いボックスに表示されます。この例では、メイン ミックスはヘッドフォン出力 1 にルーティングされ、キュー 2 ミックスはヘッドフォン出力 2 にルーティングされます。

ラージキューとスモールキュー

デフォルトでは、キューはレベルノブとミュートスイッチを含むスモールビューで表示されます。キューを展開すると、キューのパンコントロールが表示され、ロングスローフェーダーを使用してより正確なレベルコントロールが可能になります。

キュー行を展開するには、行の左側にある大きいアイコンをクリックします。



キューレベルの調整

キューミックスに送られる入力レベルを調整するには、キューノブを回します。ノブを回している間、キューレベルが表示されます。



レベルを入力するには、キューノブをダブルクリックしてキューボリュームのポップオーバーを開き、dB 値(-144~+12)を入力して「OK」をクリックします。



キューが拡大表示になっている場合、フェーダーをドラッグしてキューレベルを調整するか、メーター下部のレベル値をクリックしてキューボリュームのポップオーバーを開き、レベルを入力してください。この表示ではパンコントロールも調整できます。



モード

このドロップダウンメニューから、USB インターフェースモードと ADAT モードを切り替えることができます。これら 2 つのモードは、Volt 876 の入出力構成が全く異なります。USB モードは標準的なオーディオインターフェースモードで、最大 24 チャンネルのアナログおよびデジタル入力をインターフェース経由でルーティングできます。ADAT モードでは、ユニットをスタンドアロンのマイクプリアンプおよび A/D-D/A コンバーターとして、または ADAT 拡張システムで使用できるように再構成します。

注: Volt 876 ハードウェアのフロントパネルを使用してモードを切り替えるには、特別な手順が必要です。Volt 876 ハードウェアマニュアルを参照してください。

アクティブな MIDI ポート

USB 接続された Volt 876 では、MIDI ポートは常にアクティブです。これは、USB モードと ADAT モードの両方、そしてどのような構成であっても当てはまります。

注: macOS では、Volt 876 は USB モードと ADAT モードのどちらであるかによって、2 つの異なる MIDI デバイスとして表示されます。Audio MIDI 設定でデバイスを設定する際は、現在アクティブな Volt 876 デバイスを使用してください。Audio MIDI 設定でデバイスを区別するには、各 Volt 876 MIDI デバイスをダブルクリックし、それぞれに固有の名前を付けてください。

USB モード

Volt 876 のデフォルト設定は USB モードです。USB モードでは、アナログ入力とデジタル出力はリンク解除され、UAD コンソールまたは DAW を使用して個別にルーティングできます。USB モードは、ADAT 拡張システムのコントロールユニットにも使用されます。

USB インターフェースモードのサンプルレートと入出力

サンプリングレート (kHz)	アナログ入出力	ADAT デジタル入出力
44.1、48	8 X 8	16X16
88.2、96	8 X 8	8 X 8
176.4、192	8 X 8	4X4



Volt 876 の USB インターフェースモード

ADAT モード

ADAT モードには 2 つの状態があります。

- ・ADAT スタンドアロンモード
- ・ADAT 拡張モード

ADAT スタンドアロンモード

ADAT スタンドアロンモードは、Volt 876 ユニットを ADAT モードに切り替えたときのデフォルトモードです。このモードでは、以下ようになります。

- ・Volt 876 はスタンドアロンのマイクプリアンプおよび A/D-D/A コンバーターとして機能します。
- ・アナログ入力 1-8 は、対応する ADAT 出力 1-8 に直接ルーティングされます。
- ・ADAT 入力 1-8 は、対応するアナログ出力 1-8 に直接ルーティングされます。

- ・オーディオはコンピューターにルーティングされません (UAD コンソールにオーディオは表示されません)。
- ・Volt 876 は Core Audio または ASIO デバイスとして表示されません。
- ・ループバックは無効です。

コンピューターコントロールによる ADAT スタンドアロンモード

ADAT スタンドアロンモードでは、Volt 876 を USB 経由でコンピューターに接続すると、UAD コンソールで以下の設定をコントロールできます。

- ・プリアンプ設定
- ・サンプルレート
- ・クロックソース
- ・USB または ADAT モード



UAD コンソールの ADAT スタンドアロンモードの Volt 876

ADAT 拡張モード

ADAT モードでは、Volt 876 をエクスパンダーユニットとして設定できます。このモードでは、2 台または 3 台の Volt 876 を組み合わせて、UAD コンソールから最大 24 系統のプリアンプ入力を制御できます。詳細については、[複数の Volt 876 インターフェースによる ADAT 拡張](#)をご覧ください。

複数の Volt 876 インターフェースによる ADAT

拡張

Volt 876 システムを 2 台または 3 台の Volt 876 インターフェースで拡張し、16 または 24 チャンネルのアナログ入力(44.1 kHz および 48 kHz)を装備できます。この構成では、1 台の Volt 876 を USB インターフェースユニットとして設定し、残りの Volt 876 を ADAT エクスパンダーユニットとして設定します。

重要:ADAT 拡張モードを使用するには、2 台以上の Volt 876 を USB 経由でコンピューターに接続し、オプティカルケーブルで相互に接続する必要があります。ADAT 拡張モードを使用するには、UAD Console アプリも必要です。ADAT 拡張モードは、Volt 876 のハードウェアボタンを使用して設定することはできません。

この構成では、ADAT エクスパンダーユニットからの ADAT 出力が USB インターフェースユニットの ADAT 入力に接続され、その逆も同様です。

また、各 Volt 876 はそれぞれ個別に USB 経由でホストコンピューターに接続する必要があります。UAD コンソール内で ADAT エクスパンダーユニットのすべてのアナログプリアンプ設定をコントロールでき、エクスパンダーユニットからのすべてのオーディオは UAD コンソールのモニターおよびキューミックスで利用できます。

注意:フィードバックを防ぐため、デバイスを USB モードと ADAT モードの間で切り替える前に、すべてのマイクがミュートされていることを確認してください。

ADAT 拡張とサンプルレート

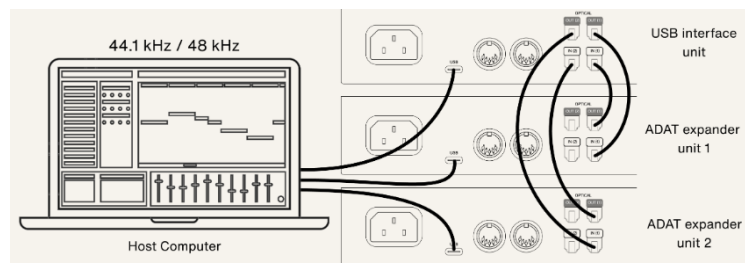
48kHz を超えるサンプルレートの場合、拡張チャンネルの最大数は 8 で、拡張ユニットは 1 台のみサポートされます。

サンプルレート (kHz)	使用可能な プリアンプチャンネル	拡張ユニット数
44.1, 48	8 (拡張ユニット:1) 16 (拡張ユニット:2)	1または2
88.2, 96	8	1
176.4, 192	4	2

Volt 876 ハードウェアの ADAT 拡張（44.1 kHz / 48 kHz）用ケーブル接続

- 1.すべての Volt 876 ハードウェアユニットの電源をオフにします。
- 2.下の図と表に示すように、ADAT エクスパンダーユニットをオプティカルケーブルで USB インターフェイスユニットに接続します。
- 3.USB インターフェイスユニットと ADAT エクスパンダーユニットを USB 経由でコンピューターに接続します。これらの接続には USB ハブを使用できます。
- 4.接続が完了したら、Volt 876 ハードウェアユニットの電源をオンにします。

Volt 876 ADAT 拡張用オプティカルおよび USB 接続 (44.1 kHz / 48 kHz)

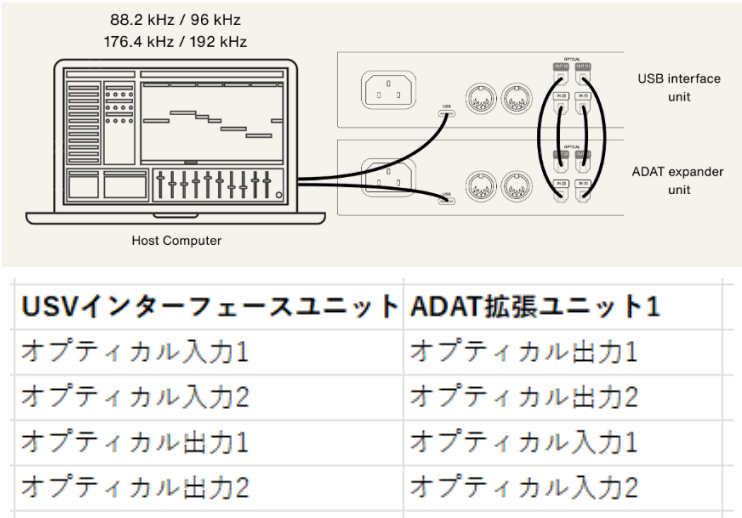


USVインターフェイスユニット	ADAT拡張ユニット1	ADAT拡張ユニット2
オプティカル入力1	オプティカル出力1	
オプティカル入力2		オプティカル出力1
オプティカル出力1	オプティカル入力1	
オプティカル出力2		オプティカル入力1

Volt 876 ハードウェアの ADAT 拡張(88.2 kHz～192 kHz)用ケーブル接続

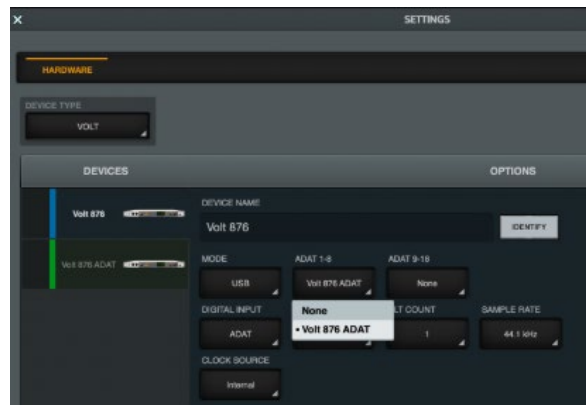
- 1.すべての Volt 876 ハードウェアユニットの電源をオフにします。
- 2.下の図と表に示すように、ADAT エクスパンダーユニットをオプティカルケーブルで USB インターフェイスユニットに接続します。
- 3.USB インターフェイスユニットと ADAT エクスパンダーユニットを USB 経由でコンピューターに接続します。これらの接続には USB ハブを使用できます。
- 4.接続が完了したら、Volt 876 ハードウェアユニットの電源をオンにします。

Volt 876 ADAT 拡張用オプティカルデジタルおよび USB 接続 (88.2 kHz – 192 kHz)



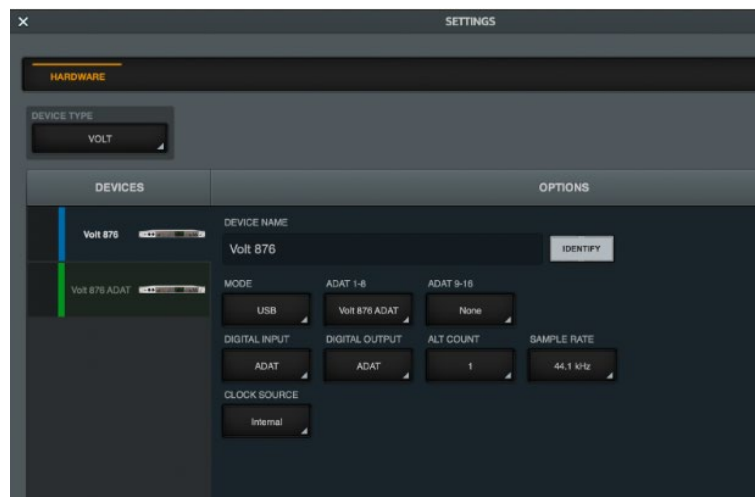
UAD コンソールを ADAT 拡張用に設定する

- 1.UAD コンソールを開きます。
 - 2.UAD コンソール設定を開くには、UAD コンソールウィンドウ (右側) の「Monitor」列にある「Settings」をクリックするか、UAD コンソールメニューから「UAD Console」→「Settings」を選択します。
 - 3.デバイスリストから、ADAT 拡張ユニットとして設定する Volt 876 を選択し、「Mode」メニューから「ADAT」を選択します。3 台目のユニットについても (該当する場合) 繰り返します。
 - 4.デバイスリストから、USB モードに設定されている Volt 876 を選択します。これは、すべてのコンピューターオーディオ I/O を伝送する USB インターフェースデバイスです。
 - 5.ADAT 1-8 メニュー (44.1 kHz - 96 kHz) から、USB インターフェースユニットの Optical 入力 1 と Optical 出力 1 に接続されている ADAT 拡張ユニットを選択します。これが ADAT 拡張ユニット 1 になります。
- 176.4 kHz または 192 kHz の場合、メニューラベルは「ADAT 1-4」になります。



6.Volt 876 ユニートを 3 台使用する場合、ADAT 9-16 メニューから 2 台目の ADAT エクスパンダーユニットを選択します。

7.Volt 876 ユニートのクロックソースを設定します。



注:表示されている設定は、44.1 kHz および 48 kHz のサンプルレートでの動作を想定しています。より高いサンプルレートでは、ラベルと入力の表示が異なります。88.2 kHz および 96 kHz では、選択できるエクスパンダーユニットは 1 つだけで、エクスパンダーユニットは ADAT 1～8 と表示されます。176.4 kHz および 192 kHz では、選択できるエクスパンダーユニットは 1 つだけで、エクスパンダーユニットは ADAT 1～4 と表示されます。

UAD コンソールと Volt 876 ADAT 拡張ユニット

Volt 876 ADAT 拡張ユニットを 1 台または 2 台追加して構成すると、ADAT エクスパンダーユニットのプリアンプが UAD コンソールに表示されます。これらの入力、USB インターフェースユニットの入力に加えて、UAD コンソールまたはハードウェアから調整できます。USB インターフェ

ースユニットと ADAT エクスパンダーユニットからのすべてのオーディオは、UAD コンソールで操作できます。

注:ADAT エクスパンダーユニットの ADAT 入力のリンクはサポートされていません。



16 入力を表示する Volt 876 1 台を搭載した UAD コンソール（拡張ユニットなし）

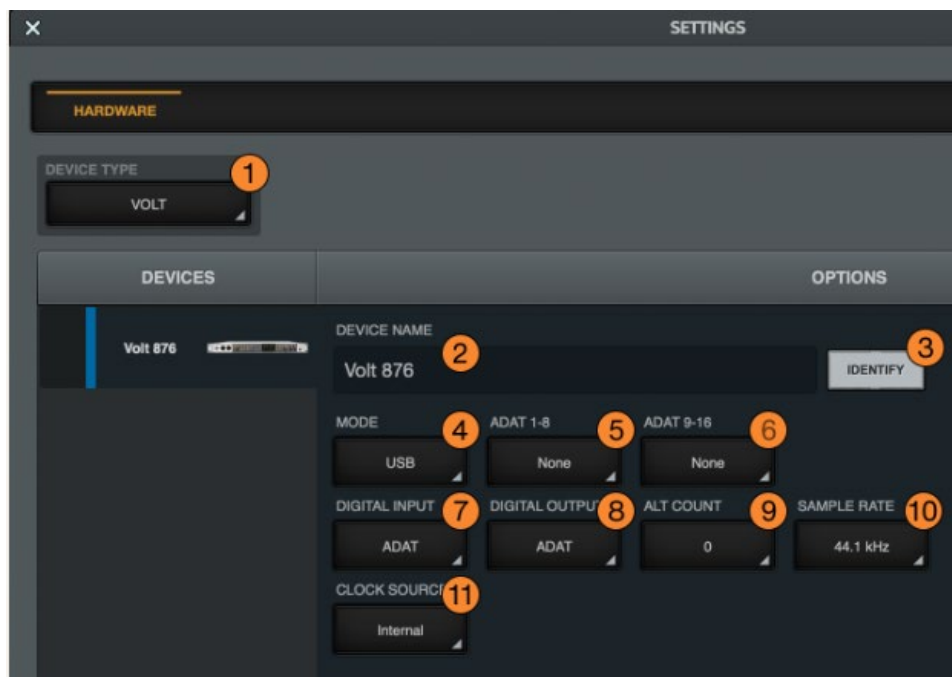


16 個のプリアンプ入力を備えた ADAT エクスパンダーユニット 1 台を備えた UAD コンソール

UAD Console for Volt 876 の設定

UAD Console for Volt 876 の設定にアクセスするには次のようにします。

UAD Console ウィンドウの右側にある「Monitor」列の「Settings」をクリックするか、
UAD Console メニューから「UAD Console > Settings」を選択します。



機能説明

- 1 デバイスタイプ デバイスタイプ (Apollo または Volt) を選択します。このオプションは、Apollo ソフトウェアがインストールされている場合にのみ表示されます。
- 2 デバイス名 Volt 876 の名前を変更できます。名前を入力して Enter キーを押すと名前が変更されます。
- 3 識別 ハードウェアを識別するには、「識別」を押します。ハードウェア前面のすべてのライトが点滅します。識別は、複数のユニットが接続されている場合に特に便利です。
- 4 モード ユニットの USB モードと ADAT モードを切り替えます。
- 5 ADAT 1 Volt 876 を 2 台接続する場合は、ADAT エクスパンダーユニットをここで選択します。エクスパンダーユニットは ADAT モードに設定する必要があります。
- 6 ADAT 2 Volt 876 を 3 台接続する場合は、2 台目の ADAT エクスパンダーユニットをここで選択します。2 台目のエクスパンダーユニットは ADAT モードに設定する必要があります。
- 7 デジタル入力 使用するデジタル入力フォーマットに応じて、ADAT または S/PDIF を選択します。
- 8 デジタル出力 使用するデジタル出力フォーマットに応じて、ADAT または S/PDIF を選択し

ます。

9 ALT カウント アナログ出力 3～4 の ALT モニタリングオプションを定義するには 1 を選択します。これは、ハードウェア ALT 手順を使用して ALT 出力を定義する場合と同じです。

10 サンプルレート ハードウェアのサンプルレートを設定します。

11 クロックソース ハードウェアのデジタルクロックソースを設定します。